

## 若手職員のスキルアップを図る学習会を実施しました

8月3日、北見市<sup>きたみ</sup>端野町<sup>したんの</sup>緋牛内<sup>のちようひうしない</sup>にある「オホーツクの森」の樹名板コースにおいて、網走中部・南部森林管理署と北見市、置戸町<sup>おけとちよう</sup>の若手職員を主体とした19名の参加により、各種の森林調査に対する能力向上を目的とした「樹木判別学習会」を実施しました。

当日は、午前と午後カリキュラムをわけて、午前の部は、樹種判別の基礎である単葉・複葉の種類、互生・対生・輪生の葉の付き方の区別、葉脈・葉柄などの部位の呼び方の説明を受けた後、4班に分かれて森林の中に入り、樹名板が設置された43種類の樹木やツル類を観察しました。



樹木判別の基礎知識を学習 午前の部



サルナシ(コクワ)を観察している様子 午前の部

午後の部は、午前中に観察した中から20本の樹木に対して判別を行い、自分の知識を確認し、それぞれのスキルアップを図りました。

参加者からは「普段の業務ではあまり触れることのなかったノリウツギやフッキソウなどを判別できるようになりました」、「ツル類はあまり知識がなかったのでこれを機会に覚えたい」などの感想がありました。

なお、本学習会で使用したコースは、今後も近隣の森林管理署の職場内研修や森林ボランティア団体のふれあい活動のフィールドとして活用していきます。



葉や樹皮の特徴から樹木を判別 午後の部